

R5 国立市立国立第七小学校 授業改善プラン（国語）

学 年	・課題（児童の実態）	○具体的な改善プラン
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階から自分の話をすることが中心である。 ・文章を書く経験が少ない。 ・漢字の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習中にペアで話す活動を取り入れる。自分の考えを話す、相手の考えを聞くことを大事にする。 ○ステップタイムの時間などを活用して、経験を基にして楽しく文章を書く活動を取り入れる。文章を書くときには、常に「は」「を」「へ」などの助詞に気を付けるように指導する。 ○授業の導入で成り立ちやクイズ、ミニテストを取り入れるなど、意欲をもって漢字学習を続けられるようにする。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生の既習漢字、カタカナが定着していない。文章を書くことに苦手感をもち、思いや考えが書いて表現できない児童が多い。 ・相手の話を集中して聞けない児童がいる。 ・ペア学習での相談や、意見交換が成立しない場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の始めに漢字を毎回取り組む時間を取り、確認ミニテストを週に2回行う。ミニテストに向けて練習時間を設ける。感想を書くときには、文例を示したり、文末表現を示したりすることで書きやすくする支援を行う。 ○話の聞き方を繰り返し指導し、話し手を見ることや、最後まで聞くことを意識させる。 ○ペア学習時は、関わり合う目的や、話型などを示して、多くの児童が相談や意見交換ができるように指導する。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字やカタカナなどを適切に用いて、文章を書いたり、それを正しく読み立ったりすることが苦手な児童が多い。 ・相手の話を最後まで集中して聞くことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字やカタカナの誤字脱字は、その都度すぐに直す習慣を付けさせる。また、文章等を書く際に、既習の漢字を確実に使って書くように指導する。 ○児童が理解しやすい言葉等を選んで話したり、話し終わった後に確認する機会を設けたりして、児童が安心して話を聞けるようにする。
4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の定着に時間がかかる。 ・自分の考えを書くのが苦手だと感じている児童がいる。 ・書きたいことの中心が定まらない文になってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○50問テストも一度だけで終わらせず、何度も出題し定着を図る。また、日常生活においても、既習の漢字を使っていくように指導する。 ○書く活動の前には、考える視点や、簡単な視点や文例を示すようにして、児童が見通しをもてるようにする。 ○簡単な構成表や、話の中心を題名にするなど、自分の書きたいことを意識して文を書き出せるように指導を工夫する。
5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や語彙の習得が苦手な児童が多い。また、学習した漢字を、文の中で用いることが苦手な児童が多い。 ・自分の考えを文章として表現することに対して、苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙力を高めるために読書に親しむ活動を積極的に行う。また、学習中は常に辞書を手元に置き、分からない漢字や言葉の意味などは、辞書を引いて調べることを習慣化する。 ○自分の考えを表現する機会を意図的に設け、できるだけ多く表現できるようにしていく。また、教師が児童の考えを必要に応じて価値付けることで、児童が自信をもって自由に表現できる環境をつくる。
6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・主に文章を読んで分かったことや考えたことを自分の経験と比べて60字から100字程度にまとめることが難しい。問題を回答する際の時間配分を考えることに苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことに慣れさせるために他教科でも意図的に書く場面を設定する。その際は文例を示すなどをして、時間配分を考えて取り組むように指導する。また、よりよい文章を書こうという意識を高めるために、書いた文章を児童同士で読み合う場面を意図的に設定する。